

# 混沌に魅入られた領域。

杉木立から眩しく差し込む陽。苔むした巨岩。森の懐に続くかのような石畳。時に葬られたかの錯覚を、可憐な路傍の花がみつめている。紀伊半島に抱かれた古道は、未だ亡者が歩く道があり、修験の道があり。

隈の地・熊野は、神話の時代から神々が鎮まる特別な場所であり、神と仏がいまなお強く繋がる日本人の精神性が具現化されたテリトリー。太古の昔から人々の篤い信仰を集めてきた。ここでは、空間や時間、秩序を超えて混沌とモノが存在し、その大なるモノとともにヒトは生きている。

①石畳の古道 ②熊野本宮大社の旧社地、大斎原 ③熊野川に広がる雲海 ④小さなお地藏さん ⑤熊野本宮大社参道 ⑥楠の久保放籠跡周辺 ⑦段染と呼ばれる海沿いの古道 ⑧梵字が刻まれた円座石 ⑨那智の大滝 ⑩神倉神社のお燈祭り ⑪古道沿いに咲くササユリ ⑫野中の一方杉 ⑬発心門王子に続く古道



世界遺産登録から10年、伝承がある。こういう話を「熊野という宝をいつまでも残していかなとあかん。そういう意識が地元の人たちに浸透したことが、最大の変化ではないでしょうか」と語る坂本さんは、熊野の語り部の産みの親ともいえる存在。

「熊野古道自体が歴史であり物語である。道端の一本の木、お地藏様の一つに」とつとつと語ってくれた。

10th anniversary Interview  
坂本 勲生  
Sakamoto Isao  
熊野本宮語り部の会長



人類の宝を未来に語り継ぐ喜び

